

令和7年度 海外実務訓練報告書

機械工学分野 4年 ■■■■

1.実務訓練先概要

派遣先:ハノイ工科大学(ベトナム)ツイニングプログラム事務所

派遣期間:2025年10月 ~ 2026年2月

2.活動報告

本実務訓練では、日本の大学への編入を目指すベトナム人学生を対象とした日本語教育および専門科目の学習支援に従事した。主な業務内容は以下の通りである。

- 授業
日本留学試験(EJU)対策として、日本語での数学(8コマ)および物理(9コマ)の授業を担当しました。また、2年生向けに「にほんご練習帳」というテキストを使用した基礎的な理系専門用語の授業(28コマ)も行った。
- 集中講義のTA業務
日本の大学の先生による集中講義が行われた際に、実験補助・テスト監督などのTA業務も行った。
- イベントの企画・運営
日本語でのプレゼンテーションの練習などを目的とした「日本語×力学コンテスト」をゼロから企画し、ガイダンスや製作指導、司会進行まで一貫して担当した。
- 事務作業の効率化
成績管理を円滑にし、事務作業を効率化するため、Excelを用いて宿題提出率や出席率を個人の成績表へ動的に反映させるフォーマットを作成し、教員が授業外の作業負担を軽減できる環境を整備した。

3.訓練を通じて得た成果と学び

実務訓練を通じ、以下の能力を養うことができた。

一つ目は、「計画立案能力」である。初回の授業で学生の理解度や雰囲気や正確に掴み、最終ゴールから逆算して大まかな計画を立てる重要性を学んだ。

二つ目は、「柔軟なアプローチと試行錯誤」である。綿密に計画を立てて臨んだ授業でも、学生の反応が想定と異なり、理解が停滞する場面があった。その際、当初の手法に固執せず、その場で複数のアプローチを柔軟に試行した。また、毎回の授業中に気づいた学生の反応や改善点を欠かさずメモし、それらを次回の授業計画へ即座にフィードバックすることを習慣化した。これによって状況を客観的に分析し、即座に代替案を実行する問題解決能力と分析を経て次からの動きを改善する能力も養うことができた。

三つ目は、「コミュニケーション能力」である。「教える側と教わる側」や「日本人とベトナム人」といった多くの違いやギャップがある相手に対して相手の知識や文化的な背景を考慮し、どうやったら伝わりやすいかを考える努力を続けた。このことから、相手の前提知識を理解した上で、情報を最適化して届ける伝達力を身につけることができた。

この度は、大学基金より移動費のご支援をいただき、誠にありがとうございました。

多大なるご支援をいただいたおかげで、経済的な不安なくベトナムの地に赴き、約4ヶ月間にわたる実務訓練に全力を注ぐことができました。現地で学生たちと真剣に向き合い、試行錯誤した経験は、私にとって何物にも代えがたい財産となりました。このご支援によって得られた成長の機会を糧に、将来はグローバルな視点を持つ技術者として社会に貢献できるよう、大学院進学後もより一層精進してまいります。